

国際シンポジウム
開催の
お知らせ

国際基準の 大学教育改革

—日本・オーストラリア・アメリカの学生調査からわかること—

河合塾は12月12日(土)、ベルサール九段(東京都千代田区)にて国際シンポジウム「国際基準の大学教育改革—日本・オーストラリア・アメリカの学生調査からわかること—」を開催します。学生調査から学生の学習経験を明らかにすることは、大学教育の質の向上につながるだけでなく、高校生の大学選びの指標にもなり得ます。高校の先生方も、ぜひご来場ください。

学習成果に基づいた大学教育改善が進む

現在、高等教育では「学習成果」に基づいた教育改善が進められている。

具体的には、学生が学士課程全体で身につけるべき知識、スキル、態度といった「学習成果」を明確化。そしてそれに基づいた「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー:DP)」を設定し、DPを達成するための「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー:CP)」を設定。CPに基づいて体系的な教育課程を編成・実施するとともに、教育方法の改善、厳格な成績評価の実施、学習支援の充実などによって学生に質の高い教育を提供。さらにファカルティ・ディベロップメント(FD)によって教員の教育力を向上。そして、そうした教育を通じて、学生に学習成果が身についたかをさまざまな方法で把握し、DPやCPを見直したり、新たな教育方法を導入したりといった、教育改善に生かすことが求められている。

学生にどのような学習成果が身についたかは伝統的に、試験の結果やレポートによって評価していたが、例えば試験で高得点を取ったとしても、試験直前に過去の試験問題などを使って対策した結果で、授業期間中はあまり学習していなかったり、授業内容を十分に理解していない可能性もある。

そこで、学生へのアンケートやインタビューによって学習の過程や学生の意識などを調査し、試験の結果などと組み合わせて、大学教育の効果を測定する取り組みに注目が集まっている。そうした取り組みの一つが「学生調査」である。

学生のエンゲージメントを把握する学生調査 大学間でベンチマークをする動きも

学生調査とは、学生を対象としたアンケート調査のことで、大学で経験した学習方法、学習時間といった、学生の学習への関与(エンゲージメント)、大学教育への満足度などを調査するものである。大学の教育課程全体を評価対象にすることが多く、個別の授業や教員を評価する授業評価アンケートとは目的が異なる。さらに、学生のプロフィール(性別、学年、専攻分野、大学入試の選抜方式等)、高校時代の学習経

験(学習した教科・科目、グループワークやレポート作成の経験等)、大学卒業後の見通しといった項目も調査し、学生の特徴ごとに分析することで、自大学の教育の強みや課題点を明らかにすることができる。

文部科学省「平成25年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(2015年9月)によると、学生アンケート調査などによって、学部段階の学生の学習行動や学習時間を把握している大学は59.8%と、6割近くの大学が調査を実施している。

しかし、それらの多くは自大学のみで実施している調査であり、高等教育全体の状況や他大学との比較(ベンチマーク)ができないため、自大学の強みや課題が明らかになりにくい。また、特に入学定員の少ない大学などでは、担当する教職員の不足や予算の制約から、調査結果を分析したり、その結果を教育改善に結びつけることが難しい場合もある。そこで、近年は大学間で共通の学生調査を開発・実施する動きがある。

共通の学生調査を実施し大学教育の改善に活用していくことは世界的な潮流で、例えばアメリカのNSSE(National Survey of Student Engagement)、オーストラリアのSES(Student Experience Survey)のように、複数の大学が参加することでベンチマークが可能な学生調査が実施されており、教育改善に活用されている。日本においても、2005年頃から同志社大学を中心とした「JSAAP(Joint Student Achievement Assessing Project)」などの共通学生調査の研究開発、事業化が進められている。(詳細はガイドライン2015年4・5月号「ひらく 日本の大学」参照)

河合塾とACERが国際学生調査JUESを開発 12月にはシンポジウムを開催

河合塾は2014年度から、SESの開発・実施を行うオーストラリア教育研究所(Australian Council for Educational Research:ACER)と協同で、オーストラリアの学生調査を参考に「日本の大学生の学習経験調査(JUES)」の開発を進めている。この調査は、さまざまな観点から学生の大学での学習経験を把握し、大学の教育改善に活用することを目的としている。自大学とJUES参加大学全体との比較のほか、

<資料> JUES 主な調査項目

修得学位

- ・専攻している専門分野 など

入学者選抜

- ・選抜方式、受験科目数、大学の志望順位 など

学生の時間の使い方

- ・学期中に活動する週の平均時間数（授業への出席、授業の予習・復習および自主的な学習、アルバイト、サークル活動・部活動、ボランティア活動） など

学習への関わり

- ・大学で学ぶ心構えができてきているか、学業に対するモチベーションがあるか
- ・大学教育において、それぞれの活動にどれくらいの頻度で関わったか（授業中のディスカッション、他の学生とのグループワーク、授業外での学生との交流）

- ・大学教育全般の質の評価
- ・退学を考えたことはあるか など

教育の質、学習環境

- ・大学教員への評価（知的好奇心を刺激したか、学習を促す課題を設定したか、課題や提出物にコメントをしたか、など）
- ・学習環境への評価（教室、図書館や実験室、コンピュータ環境、教材など）
- ・大学教育を通じて身についた能力・技能（専門分野の知識、批判的思考力、問題解決力、コミュニケーション能力など）

学生支援

- ・就職支援、学習支援が利用しやすかったか など

将来の見通し

- ・卒業後どのような進路を希望しているか など

オーストラリアと共通の質問を設けることで、国際比較も可能な点が特徴である。主な設問は<資料>をご覧ください。

2015年度は19大学の協力を得てパイロット調査を実施。調査結果等をもとに、2015年12月12日（土）に、国際シンポジウム「国際基準の大学教育改革－日本・オーストラリア・アメリカの学生調査からわかること－」を開催する。本シンポジウムでは、まず、アメリカから講師を招き、学生調査の最新動向等について講演いただく。次に、河合塾とACERから、パイロット調査の結果や日本とオーストラリアの学生調査の比較等について報告する。そして、学生調査を活用した教育改善やその方向性について改善の事例として、パイロット調査に協力いただいた山梨大学と産業能率大学、さらにオーストラリアの学生調査を活用した教育改善の事例として、ディーキン大学副学長の講演を予定している。さらに、

講演者に登壇いただき、学生のエンゲージメントや、国際基準の大学教育改革の在り方を考えるパネルディスカッションを行う予定だ。

河合塾はJUESの研究開発にあたり、大学教育の質の向上だけでなく、高校生の大学選びの指標を充実させることも視野に入れている。昨今、大学進学後にミスマッチが発生することが問題となっているが、その原因の一つは、現状の高校生の大学選びにおいて、入試難易度や入試科目を非常に重視する傾向が強いことにある。そこで、偏差値を中心とした大学選びから、マッチングを重視した多面的な大学選びを可能にするため、ガイドラインの記事やガイドライン特別号の発行等を通じて、入試情報以外の大学情報の発信にも取り組んできた。さらにJUESを実施し、大学生の学習への関わり方（学習時間や学習方法など）を明らかにすることで、大学選びの指標の1つとして高校生に提供していきたいと考えている。

<開催概要>

2015年度国際シンポジウム

「国際基準の大学教育改革」－日本・オーストラリア・アメリカの学生調査からわかること－

日時

2015年12月12日（土）
13:00～17:20（12:30開場）

会場

ベルサール九段（ホール）
〒102-0073
東京都千代田区九段北1-8-10 住友不動産九段ビル3階
（九段下駅5番出口・7番出口徒歩3分、
神保町駅A2出口徒歩7分）

参加費

無料

申込方法

参加をご希望の先生は下記のホームページからお申し込みいただくか、ガイドライン編集部（gl@kawai-juku.ac.jp）にお問い合わせください。

http://www.keinet.ne.jp/jues_symposium/

プログラム

同時通訳あり

第1部

基調講演

「学生エンゲージメントと学生調査の国際的な動向」

全米高等教育経営システム研究所（NCHEMS）
副所長 Dr. Peter Ewell

第2部

JUESパイロット調査結果報告

**「日本とオーストラリアの学生調査の概要と
その結果からわかること」**

オーストラリア教育研究所（ACER）
高等教育研究プログラム 主任研究員 Dr. Daniel Edwards
学校法人河合塾教育情報部 部長 近藤治

第3部

各大学の事例発表

ディーキン大学 教育担当副学長 Professor Beverley Oliver
山梨大学 埴雅典教授
産業能率大学 松尾尚教授

第4部

パネルディスカッション